

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800186		
法人名	社会福祉法人 報謝会		
事業所名	グループホーム ミューズの空 高原	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字蒲牟田 7351番地2		
自己評価作成日	平成29年7月16日	評価結果市町村受理日	平成29年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigovsyoCd=4571800186-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

空気の澄んだ、緑豊かでのどかな環境の下、職員同士、ご利用者様との関係も良好で生活を共にしている。
その人らしさを大切に、個別支援に取り組んでいる。
認知症が進行し、重度化した場合もご家族、職員、看護師、かかりつけ医連携の下、看取り介護の体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地からは離れた霧島連山のもとに位置し、緑の山々に囲まれた静かな高台に住宅型有料老人ホームと隣接して3ユニットのホームはあり、四季折々の自然の変化が眺望できる穏やかな環境にある。管理者と職員は理念に沿ったケアに向けて日々利用者に寄り添いながら家庭的な雰囲気作りを心がけ明るく笑顔あふれるケアを行っている。医療連携による定期的な健康診断や、重度化した場合の指針の説明や対応について、早い段階から本人・家族の希望を第一に支援している。また、医師や関係者と連携して方針を共有し前向きに取り組んでおり、実績も多く本人・家族が安心できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミュージズの空高原理念があり毎朝朝礼で復唱し浸透してきた実践に繋げている		管理者と職員は地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を共有し毎日の朝礼や職員会議で理念を確認し実践につなげる取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃活動や、高原交流市などご利用者様と共に参加し、交流に努めている		地域の清掃活動に参加したり、地域に出向き認知症サポーター養成講座を開くなど地域とのつながりを大切に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加したり、認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方に認知症を理解して頂けるよう取り組んでいる			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施し、情報交換の中で、率直なアドバイスを頂きサービス向上につなげている (朝高原二番館との合同防災訓練、水害設定等)		会議は行政、利用者代表、家族代表も参加し定期的に開催し行事の案内、活動報告、感染症等の困難事例等について話し合うなど協働関係を築いているが、運営推進会議のメンバーに見識者の参加がない。	更に運営推進会議を充実し地域の理解と支援を得るために地元消防団や見識者等幅広い人材の加入を図りサービス向上に努めることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険係とは、月1回の会議に参加し、情報共有を図ったり、ご家族様からの苦情相談等、アドバイスを頂きながら、関係づくりが図られている		運営推進会議や各種報告に関して電話や直接出向き、助言や支持を得ており良好な関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行い、拘束のないケアに取り組んでいるが、法人の考えで外柵の開錠は実現できていないケアに取り組んでいる		職員は研修や勉強会で具体的な行為やその弊害について学び身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の朝礼や、職員会議で勉強会を行っており、職員同士連携を図り、予兆がみられたら早期対応が出来るような環境づくりに努めている			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を活用していたご利用者が居られた為、制度を学び、必要な方にはアドバイス出来るよう周知を図っている 把握できている職員は少ないので職員にも周知を図っていく			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や、料金改定等、十分な説明を行い、こまめに連携を図り納得頂いている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、面会時必ず日常の報告を行い、ご家族の意見や要望を聞き、前向きに検討し、運営に活かしている	面会時や電話などで意見や要望を気軽に話せるように雰囲気作りに配慮し、表出した課題は全職員で検討し運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、夕の巡回時や、朝礼、職員会議の場で職員に意見を聞き、前向きに取り組んでいる	月1回の職員会議で要望、意見を聴取し業務へ反映している。腰痛防止対策の一環として全職員にコルセットを支給するなど職員が働きやすい環境作りへの配慮もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足は徐々に改善され、資格取得の為に勉強会や、処遇改善手当支給など、環境整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格取得の為に勉強会や、研修会への参加を促し、支援を行っている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の、定例会、総会、研修会に参加し他事業所との交流を図り質の向上に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時にご本人の要望、不安に思っている事等を聞き、安心して暮らして頂けるよう関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時、担当者会議時にご家族様からの要望等に耳を傾け不安の解消に努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、必要としているサービスを見極め、多様な連携が図れるよう調整を行っている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事を見極め、自立支援に向けての取り組みを行っている 常に声をかけ状態把握に努め、その人らしく暮らして頂けるよう努めている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様へのお手紙を写真付きで送り、近況報告を行っている 些細な事でも常に報告し、面会しやすい環境を整えている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば、可能な限り実現に向け実施している	利用者がかつて関わりがあった場所やなじみのスーパーに家族や職員と一緒に出掛けしている。友人知人の来訪もあり電話や手紙の支援も含めて今までの習慣や関係性が継続できるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がコミュニケーションを図り、孤立しないで笑顔で暮らせるよう、関わりを持ち支援している			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した後も、各機関と連携を図り、ご本人の情報共有や、気軽に相談を受け、フォローを行っている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らせるよう希望の実現、意向の把握に努め添えるよう支援している	日常の会話から可能な限り本人本位の立場で思いや意向をくみ取るよう努めている。家族からも情報を得ながら利用者の安穏とした暮らし方の継続について検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シートやアセスメントシートを活用し、課題分析に役立て本人の状態把握や、これまでの暮らしが継続できるよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態把握に務め、出来る力を伸ばせるよう支援している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が毎月支援実施記録を記入し、モニタリングを行い、計画書に反映している	介護計画は基本的には半年ごとに記録し、変化があれば随時見直しを行っている。担当者会議には利用者と家族の外に管理者、ケアマネジャー、担当職員が参加し利用者、家族の意見を反映した介護計画書を作成している。モニタリングは毎月実施しその評価を記録している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、サービス内容に沿って記録を残し、全員で共有し、介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて可能な限り、支援を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に務め、公共機関や、飲食店など協力を貰い支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう支援している かかりつけ医以外にも適切な診療が受けられるよう支援している	ホーム協力医の定期的な往診やかかりつけ医の往診も支援している。看護師は週1回利用者の健康管理を行い、主治医との連携を図っている。診療の情報は家族・医師も含めて共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師と連携が図れており、健康管理や細かな状態把握は記録シートにより連携を図っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になられた場合には、3日に一回は面会を行い情報の共有連携を図り、早期に退院できるよう関係づくりを行っている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人、家族と意向を確認し説明を繰り返し行い、医師、看護師と密に連絡を取り合いながら、終末期を迎えられるよう支援している	重度化や終末期の対応については契約時や状態変化の各段階、家族の心配に応じて指針を基に話し合いの場を設けている。利用者、家族の希望を第一に医療関係者との密な連携により支援の方向性を確認して事業所ででき得る支援を行っている。看取りの経験もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、救急蘇生法やAEDの使い方等全員が習得出来るよう講義や研修会を行っている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間想定防災訓練を実施し、分遣所、併設の事業所とも連携が図れている 飲料水や、非常食の準備も出来ている	年2回夜間も想定した法定の訓練は隣接する住宅型有料老人ホームと一緒に実施しているが、地域の住民や地元消防団等の協力体制が十分ではない。非常用食料・飲料水・備品は備蓄している。	地震や火災等不意の災害時に備えて地域の理解と支援を得るために地域住民(民生委員)や消防団員・派出所員等の協力体制の構築が必要であり対応を検討されることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声かけ、敬語での対応を基本とし、尊厳を守る事を朝礼や職員会議等で確認し合っている		個人を尊重し個々に応じた声掛けや対応を行っている。言葉づかい、接遇マナーについて毎月の職員会議で全職員で振り返る機会を持ち、丁寧な対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に相手の立場に立って物事を考えられるよう朝礼や、職員会議の中で確認しあっている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事に、極力希望に沿えるよう柔軟に支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は馴染みの理容室に行かれる方は居られないが、要望に沿えるよう支援している 服装も本人が選べるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所へ一緒に入っでの取り組みは出来ていないが、一緒にテーブルを囲んでの会話や、後片づけ、テーブル拭きは取り組んでいる		食事は同法人施設の配食サービスを利用しているが汁物は各ユニットで手作りし、利用者と職員と一緒に食事をしている。テーブル拭きなど軽作業を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事摂取量や、水分摂取量の確認を行い、十分な量が摂れない時には、家族、かかりつけ医と連携を取り、嗜好品の提供など柔軟に対応している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ毎食後、口腔ケアを行っている 月に1回看護師による巡回指導を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を促している ユニットごとにオムツの使用量を検討し、常に確認を行っている		個々の排せつパターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行いながら可能な限りトイレでの排せつが継続できるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の周期を確認し、腹部マッサージや、乳飲料等で調整し、極力下剤を使わない様支援している			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本曜日や時間帯が決まっているが、要望に合わせて臨機応変に対応できる体制を整えている		基本は週3回であるが利用者の希望、タイミング、体調に合わせて柔軟に対応している。希望があれば毎日でも入浴可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や、要望に沿えるよう環境を整え、いつでも休むことが出来るよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状態を把握し、飲み忘れや、誤薬を防げるよう、情報を共有している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭木の手入れをしたり、晩酌や、甘いコーヒー等楽しめるよう配慮している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に協力を貰いながら外出したり、季節に応じた野外活動も取り入れている 中庭は自由に出入りが出来たり天気の良い日には中庭で茶話会を行っている		個別対応の外出の外、季節に応じた花見やイルミネーション見学など戸外の開放感、季節感を五感で楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの現金は預かっていないが、数名現金を所持されている方が居られしっかりと管理されている 要望があれば施設より立て替え支援を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話への依存の方がおられる為、ご家族と話し合い何時でも支援できる体制を取っている 手紙への支援も行っている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、シンプルを基本に、季節に応じた飾りつけを行っている	共用空間は広々と明るく通風、温湿度も体感に応じて調整されていて不快なく清潔保持もできている。一角に畳の間やソファもありそれぞれの居場所作りを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名でくつろげる様にソファを置いたり、掘りごたつでくつろげるよう支援している			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込まれたり、その人らしさが出せるよう支援している	居室は利用者のそれぞれの個性によっても違い、使い慣れた家具類、冷蔵庫、ラジカセや小物類、化粧箱などなじみの物が持ち込まれている。仏壇、遺影を飾り心地よく安心して暮らせる工夫などしてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、夜間帯はポータブルトイレを設置したり、センサーを活用し、転倒防止に努めている			